

平成30年12月2日(日)「横浜水道会館」において「災害対策委員会 第7回災害対策研修会」が開催されました。

第7回目となる今回は「災害時におけるリハビリテーション支援の実際と生活再建に向けた復興期における支援の在り方」について検討することを目的として研修会を開催しました。

「災害時における受援体制」や「受援力」がクローズアップされた「平成28年熊本地震」より2年が経過しましたが、その後も地震災害に限らない自然災害が頻発しています。大規模広域災害に備えるべく、災害時リハビリテーション、災害理学療法の役割を整備する必要があります。

講師には三宮克彦氏を迎えて、実際のリハ支援についてお話しいただきました。「平成28年熊本地震」時には、避難所等で災害時要配慮者を中心に支援するリハビリテーションチーム大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team:JRAT）の調整本部長としての実際の活動についてお話しいただき、「平成30年7月豪雨災害」時には、現地にてkumamoto JRAT事務局長として活動された際のチーム構成から1日の流れ、活動する中で感じた問題点などについて、現場の写真を踏まえてお話しいただきました。

午後は、これまで行ってきたアンケートを通して要望が聞かれていたシミュレーション訓練を初めて取り入れました。今回行った「避難所運営ゲームHUG（Hinanzyo Unei Game=避難所運営ゲーム）」は避難所の出来事や避難者対応をゲーム感覚で模擬体験する演習です。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを疑似体験するゲームです。次々に読まれるカードや出来事への対応で、どのグループも実際の避難所さながらの混乱が起きていました。

HUGの後にいった下田栄次災害対策委員長の講義「多職種連携における応急仮設住宅コミュニティのマネジメント」では、福祉避難所の開設や仮設住宅への支援に関する演習を実施、グループでのディスカッションも活発に行われていました。

県内会員だけではなく、県外の会員や他職種の方の参加もあり、40名を超える多くの方にご参加いただきました。また、ファシリテーターを務めて下さったエリアコーディネーターの皆様のご協力に、この場をお借りして御礼申し上げます。平成31年1月22日(火)には、横浜南部・西部ブロック災害対策キャラバンを開催します。さらに各地域にて具体的な災害対策・防災施策を実行していきたいと思っております。より多くの方々のご参加をお待ちしております。

